

### 同窓生近況

#### 「海外青年協力隊に 参加して」

#### 14回生 楠田一千代

日本に戻ってから一年余り。そして出発の日まであと三ヵ月。

三年前、青年海外協力隊隊員として西アフリカ・セネガル共和国へ。二年間、水道、電気のない村で、村人と時にはぶつかり、酒を酌み交わし、助け合い過ぎてきた。満月の晩の巨大で明るい月。月のない夜には息が詰まるくらいに空一杯にちらばる星たち。黒く厚い雲が空を覆い激しい雨が地上を打ち、乾期には枯れ草を魚がす強烈な太陽。一日中視界を遮り大気を黄色に染める砂嵐。みんなアフリカだった。そこに住む人々からは多くの事を学んだ気がする。自然に逆らわない、あるがままの生き方。よく言われる事だけ彼らには僕らの失ってしまつた心の豊かさが確かにある。それは何というか、よそ者、外国人である僕が突然訪れても笑顔で受け入れ歓迎してくれる寛容さ、心のゆとり。友人の家に行き握手をし挨拶をし腰をおろす。それだけで何だかホッとする。あの気持ちは、幸せ？、何だろう。

発展途上国に対し先進諸国は開発のための援助を続けている。多くがその国の近代化、欧米化を目的としたものである。農作物の生産性を上げるために機械を導入し肥料をばらまく。工場誘致のために森林を開き道を通す。アフリカにはアフリカのテンポ、性質にあった発展の方向があるんじゃないかなろうか。異国での生活

は考える時間をたっぷり与えてくれた。僕は現在はNGO(非政府援助団体)の一つである「社」協力隊を育てる会」にいる。世界40カ国で活動する一七〇〇名程の青年海外協力隊員たちを応援しながら本年九月からの留学に向け準備をすすめている所である。将来国際機関で働くワンステップにするために、オタワ大学大学院にて国際開発協力について学ぶ予定である。



### 「社会人一年生として」

#### 20回生 松岡真宏



不快なベル音と共に始る私の朝。学生時代に怠惰を覚えた私の体には、午前五時の起床は厳しい。それでも、鏡の中でネクタイを締める自分を見ると、「社会人になったんだなあ」という実感が込み上げて来る。悩みに悩んだ挙げ句、シンクタンクの研究員(証券アナリスト)としての道を選んだ訳だが、後悔はするまいと自分に言い聞かせている。

さて、日々の多忙なジョブの中で、「自分」というものを、いかにバランス良く保っていく事ができるかという事が、私の一生の課題であると私自身は認識している。人間は忙しさの中で判断力を失い、身辺で生じる様々な事象によって、「自分」を曖昧さ・混沌の中に埋没させてしまう傾向があり、私もその例に洩れない。その防衛策としては、身辺で生じた事象をいかに好意的に自分の中に内部化するかという事だと思われる。自分にとって好ましくない事象であっても、事象には様々な側面が存在している故、好意的に受け取る事も可能であり、そうする事が自分をネガティブな行動から脱却させる唯一の方法なのではなからうか。そこで、甚だ僥越ながら、私の大切にしている言葉を紹介させて頂こうと思う。仏教の言葉に「呼吸の機」という言葉がある。これは孵化の際に親鳥が卵の殻をつついて孵化の助けを行う事で、又とな機会を暗示している。人間は、多様な可能性をいう雛を内包した卵を汎山

持っている。自分の外部で生じた様々な逆境的事象はまさに「呼吸の機」の親鳥であり、我々の可能性を引き出さんとし我々の内なる卵をつついていっているのである。但し、親鳥が外からつついただけでは雛は孵らないのであり、雛が卵の中から自らつついてはじめて、孵化が成就される。故に、我々も呼吸の機に臨んで、自分の内から、自ら殻をつついて破らなくてはならないのであり、汎山の逆境に遭遇し、自ら殻をつつく事によって汎山の自分の可能性が開花すると考えられる。こうする事によって、人間は外部事象の好意的内部化が可能になり、人生におけるジャイアントステップを確立できるのではないだろうか。

私に甚大なる意味で「呼吸の機」を授けて下さった母校が、今後共益々発展され、又一人でも多くの我が後輩たちが各々の「呼吸の機」に臨み、自らの可能性を十分に発揮される事を切に期待して止まない。(野村総合研究所勤務)

### 「西高を卒業して」

#### 24回生 浅井 徹



私はこの春、我が母校一宮西高校を卒業しました。卒業後、わずか3ヵ月しか経っていないのに、時折卒業アルバムをながめては母校をなつかしく思う今日このごろです。先日は「OBを囲む会」の機会に学校におじゃまして、お世話になった先生方に会うことができました。どの先生も元氣そうで安心しました。また受験勉強や部活動に取りくん

いる在校生の皆さんを見ては頼もしく思いました。さて、私が大学に入学してからというもの普段はアルバイト、コンパ、サークル、自動車免許などで追いまくられ、たまの土・日曜日友人の下宿で泊りこむという放浪な生活を送っています。最近はやさしくこのような生活にも慣れてきました。時々高校時代の勉強と部活動にあけくれた規則正しい生活(?)をなつかしく思います。

大学生生活の楽しい点といえば、やはり勉強をあまりしなくてよいことでしょうか。とはいっても、遊んでばかりいるという意味ではなく、高校での入試用のいわばおしつけられる勉強を脱して、自分の興味ある分野の勉強をできるということです。先日は、学部の学外実習という企画で一泊二日で地域医療を見学してきました。主に寝たきり老人の往診に立ちあい、地域医療の実態を知ることができ、とても良い経験になりました。

こちらで少し西高での思い出について書こうと思います。一番の思い出は西高祭でしょう。今思えば西高祭は本当に素晴らしいかったですね。積極的に参加すればするほど意義のある行事でした。リーダーの踊りを終えたとき、マスコットを完成させたときの満足感忘れられません。今でも私は西高祭に誇りを持っています。

最近、一部で西高祭の縮小が叫ばれているようですが、後輩の皆さんが協力して、西高祭をもっとすばらしいものにし、それを西高の発展に結びつけていくことを願っています。(名大医学部在学)